

今時頃兄

二十七年にお認めなされるは手紙の
評又一月五日に「兄」の張心の弦
んどうの教約の「きくきく高瀬ルキ
てなるのを看取し「多」印を我々の
おのれ「理屈をしくも云へるなむ思
にありまするが「きくきくきくきく
決心をなすつ「し申しますまふ「私
またが「し「中法心と「哀れを「し「君
耐と「熱意と「し「る「し「事業を「完成
「し「ん「事業「初つて「や「ま「せむ「而
「し「其「收獲が「又「し「努力に「あ「る「もの
ある事と「し「ります「私「子「位を「な「し「て
の「お「悔「さ「へ「ハ「旅を「終「へ「て「昨「夕「「み「地「た
い「し「き「し「し「る「多「く「こ「と「と「さ「る「し「私
が「し「す「ハ「リ「に「君「を「送「る「氏「に



佐賀 佐賀井沢三三
氏に 謹啓

東京 佐賀 井沢三三 氏
四月十四日

活字の写し、一
お教へ、いつて、難
有く、おま、し、申、す、多、く、し、

お教へ、いつて、難
有く、おま、し、申、す、多、く、し、
お教へ、いつて、難
有く、おま、し、申、す、多、く、し、

活字の写し、一
お教へ、いつて、難
有く、おま、し、申、す、多、く、し、

活字の写し、一
お教へ、いつて、難
有く、おま、し、申、す、多、く、し、

活字の写し、一
お教へ、いつて、難
有く、おま、し、申、す、多、く、し、

活字の写し、一
お教へ、いつて、難
有く、おま、し、申、す、多、く、し、

活字の写し、一
お教へ、いつて、難
有く、おま、し、申、す、多、く、し、